

第4回三重県地方創生会議 概要

1 開催日時：平成28年6月13日（月）16：15～18：25

2 開催場所：三重県農協会館 5階 大会議室

3 議事概要：以下のとおり

1 開会（三重県知事 挨拶）

- ・本日お集まりの皆さんに、5月26, 27日に行われた伊勢志摩サミットについて、お礼を申し上げたい。無事に、そして成功裏に終えることができた。これも本日お集まりの皆さん、そして皆さんが所属される各企業・団体・組織の中での多大なご支援・ご協力あればこそで、改めて皆さんのご協力に心から感謝を申し上げたい。
- ・サミットで、三重県の食等を始めとして、いろいろな情報発信をした結果、知名度があがってきている。しかしながら、これらはチャンスでしかない。ここからどう結果を出していくか、地方創生を加速化していくかどうかは、私達の手にかかっている。
- ・そういう意味では、サミットの直後であるからこそ、皆さんと共に、それに協力をしていく、そういう心合わせを是非したいと思っている。
- ・本日は平成27年度の総合戦略の目標達成状況や取組結果をご報告させていただいて、今後の取組等についてご議論いただきたい。これから4年間は、正念場となってくる。ぜひ皆さんの力をお借りしたい。

2 資料説明（安井企画課長）

資料1から資料2により説明

3 意見交換

（項目）

三重県まち・ひと・しごと創生総合戦略の検証レポート等について

各委員から出された意見の概要は以下のとおり（欠席委員の意見紹介を含む。）

（検証レポートに対する意見）

- ・高齢者のことが書かれていないのが少し残念である。
- ・合計特殊出生率を指標に用いるのではなく、一人目を出産した後に、もう一人出産する割合が、どれくらい伸びているかというような指標を用いるべき。

- ・ 県産材の排出が 0.89 と、目標が達成できなかった理由は、住宅に関して、木造住宅が少なくなってきたことと、構造材や柱のような大きな物の需要が少なくなる一方で、合板やラミナ材などで建築しているためである。さらに、三重県の場合は、木質バイオマスエネルギーが、今年 3 社一斉に発電が始まった。木質バイオマスの需要は、だいたい 1 年で 17~18 万トンくらいになる。非常に需要過多になり、供給が追いつかず、価格的に生産コストと回転コストに、ある程度差があることなどが考えられる。
- ・ 検証レポートの書き方について、取り組んだ事例、成功事例などを盛り込んでいくと、非常に分かりやすいレポートになるのではないか。

(自然減対策に対する意見)

- ・ 地域で子供達を育てていくというような取組がこれからの課題と考える。
- ・ 少子化の観点から、全国レベルのデータをみると気になる点が二つある。一つは、晩婚化・晩産化の傾向が変わっていない。特に結婚の問題であるが、結婚支援がやはり重要ではないか。もう一つは、多子世帯があまり増えていない。第 1 子の出生率はかなり改善したが、第 3 子以降はほとんど伸びていない。多子世帯をいかに支援していくかということが課題である。なお、今の話は、全国レベルのデータであるので、県レベルのデータでこれを検証して、県の課題に基づいて対応することが必要である。
- ・ 保育所整備に関連して、幼稚園と保育所について、保育士資格と幼稚園教諭資格が、全く別であるなど課題がある。法改正を含めて、もう少し資格取得に対して、簡便な方法を取ってもらおうという声をあげていかなければならない。
- ・ 働き続けながら子育てをしていく難しさというのが浮き彫りになっている。大変大きな課題である。今後は、さらに新たな施策など様々な施策を進めていくと思うが、よりスピード感を持って取り組んでいくべきと感じた。
- ・ 児童虐待防止の観点から、介護のケアマネージャーなどのように、育児でも誰か助けてくれる存在があれば、とても違うと感じている。
- ・ 県において、出逢い支援に取り組んでいることは評価をしているが、今後は、より成果に直結する結婚支援という形で取り組む必要がある。さらに結婚した方の定住化も大事であり、住むことに対するインセンティブが働く施策を行う必要がある。
- ・ 保育園の待機児童数が、高止まりしている。対策として、限られた資源を有効に使って乗り切るという点を少し考えたらどうか。具体的には、一つは育児休業の延長である。1 歳まで確実に育児休業を取ることができれば、0 歳児保育がものすごく減らせる。母親で足りなければ、父親に取ってもらい、

合わせて延長すればいい。二つ目は、幼稚園、あるいは認可外保育園を活用すること。三つ目は空いている園もあるので、入所をさせる時に、少しずつ遠方にシフトさせることで、当面の需要を対応するというのを考えたかどうか。

- ・子育て支援について、行政があまりに出すぎてもいかなものかと思う。大人になる過程で、親の苦労や背中を見せることも大事ではないか。
- ・子育て支援に取り組む企業を、くるみんマークという制度で認定してきた。くるみんマークよりも更に一段高い取組、男性の育児休業などに積極的に取り組まれている企業をプラチナくるみんという制度で作し、三社目の認定を行うことになっている。

（社会減に対する意見）

○全体

- ・まち・ひと・しごと創生のために取り組む3つのキーワードである、街づくり、人づくり、仕事づくりの取組をやっているが、その効果が見えるのは、多少時間がかかる。

○学ぶ

- ・大学生等の奨学金の返済額を一部助成する制度は、学生が、進学か就職かを目指す場面で、進学という進路を支える制度だと思う。この制度が定着すれば、より県内の進学を目指す方が、増えるのではないか。
- ・若者の県内定着の促進について、大学進学時に県内では進学先の選択肢が少ない。若者のニーズを踏まえて、例えば、食に関わる大学や学部の設置を検討してはどうか。
- ・大学でキャリア教育を推進すればするほど、優秀な人材の県外流出が進むという側面も否定できないため、産学連携によってしっかりと人材育成を図ることで、県内定着に取り組む必要がある。

○働く

- ・「お仕事広場みえ」の企業訪問ツアーは、なかなか企業を訪問することが難しい学生にとって、仕事を知るのに、すごく良いきっかけとなる
- ・働く場、働き方の質の向上等に関する事では、地域の中小企業、小売業の経営の安定及び向上が非常に重要になってきている時期だと感じる。
- ・漁業だけでは、発展は難しい。他の産業と連携が必要で、コーディネーターする人が必要である。
- ・経済団体・組織の職員の資質向上が非常に重要であり、それは、まさに産業

振興の一つのインフラだと思う。人材育成への支援を、財政的・人材的・政策的に進めていただきたい。

- ・アフターサミットを抱えた産業の育成と、それから今ある女性の社会進出の問題を、今後ワークライフバランス等々考えながらいろいろと進めていかなければならない状況にある。
- ・若者の雇用対策について、内閣府で、東京圏の学生を地方にインターンで派遣するという事業がある。中京圏や関西圏でも同じようなスキルでやったらどうか。インターンなどの形で、大学2年生、3年生から、三重県の企業との連携ができると、就職の時に目が行くと思う。若者をこちらに取り込んでいくということをして、さらに進めていく必要がある。
- ・今、一番重要なことは正社員就職を増やしていくことであると考えている。皆さんに、正社員就職に向けての気運醸成ということをやっていただければと思う。
- ・労使間でのトラブルが、多様な働き方によって非常に複雑化し、解決にも非常に長期間かかるようになってきている。こうした部分は非常にデリケートな部分であることを考慮に入れ、取組を進めるべき。
- ・マーケットをどうやって作っていくかが、非常に重要ではないか。マーケットは、三重県だけではなく日本中、世界中にある。これからは、三重県に本社を置きながら、世界で進めていく、日本中営業をしていくという企業を育てていきたい。
- ・三重県は、食の生産においては優等生であるが、食の産業化のために、生産・加工・流通・販売・人材育成のネットワークが必要である。今後、付加価値をつけて販売し、いかに人材育成を進めることができるかを考えて、ネットワークをしっかりと形にしていかなければならない。
- ・東京では、ベンチャーやNPOを目指す動きがあるが、三重県では起業しにくい。北中勢において、起業やNPOの立ち上げがしやすくなるような取組をしてはどうか。
- ・インバウンドのプロモーションについて、ターゲットを絞り、かつ継続的に行う必要がある。セントレアを中心に2,000キロの円を書くと、上海・北京までで、香港までいかない。ここを重視して、お客さんを誘致していくことが一番大事だ。
- ・若者の雇用に積極的に取り組み、かつ優しい雇用をする企業について、ユースエールという認定制度をつくった。条件が厳しいためか、なかなか認定ができないが、非常によく取り組んでいる企業もあるので、学生の方は、こういうマークなども参考にしたい。
- ・若者の雇用について、結婚して出産して、子どもを育てていくために必要で

ある経済基盤が作れる雇用でなければならない。そのところを重点的に考えて欲しい。

- ・人工知能は、産業界に相当の変革をもたらすであろうと言われている。日本のものづくり産業、医療現場、建設工事現場などが、徐々に人工知能と工作機械によって、とってかわられるという話が、もうさほど遠くない時代に来る。日本の優位性のあるものづくり産業というのは、非常に危険ではないかと思う。こういう世界の研究開発は、一企業だけでは大変な投資が伴い、学校でもなかなか難しい。そのため、三重県として全体で取り組まないといけない。長期戦略の中で、どういう戦略を描いていくかを考えておかないといけない。
- ・三重県がいいから三重県で働くという人をいかに育てていくのか、ということが非常に大切だと思う。三重県に定着した働き方のスタイルを、オリジナリティを持って創出していくことによって、三重県で生まれて育って学んで、そして働くというようにつながっていくのではないか。

○暮らす

- ・学校、公共の場で、大人が一人ついて、例えば親子で一緒にサッカーや陸上、野球が一緒にできる場面が増えて来ると、子どもの運動能力もアップしていくのではないか。
- ・東京オリンピックを見据えて、スポーツによる交流人口の拡大を図ってはどうか。
- ・高齢者や退職された方々を、もう少し県が採用して、街の活性化をしたらどうか。
- ・大きな街が、どんどん住みにくくなっている。大型店舗ばかりで、買い物に困る場合がある。
- ・最近、スポーツで代表になる選手でも、挨拶ができない人がすごく増えている。人材育成の前の当たり前のことを、それは何のために必要かを丁寧に教えていく場も必要と感じる。
- ・三重県に対する愛着は、小学生のときからの積み重ねだと思う。小学生には郷土教育、中学・高校生は地域学習、大学生は、地域と一緒に何か行動するようなことをし、なおかつ県内の企業を知るといような、一つの流れが小学生から大学生まで続いていけば、より三重県に愛着を持ってこれからも三重県に住んでいきたいというような若者がどんどん増えてくるのではないか。
- ・自治会に入らない方が、だんだん増えてきている。
- ・子供が店を継がないから辞める方がすごく多い。この街には、ここへ行ったら、この商店があるという情報提供の取組をしている。

- ・海がきれいになることで、真珠が出て来るということになるので、環境を整えて、魚が住める、あるいは真珠が住めるような地域性を作っていただきたい。
- ・治安が危ない時代になってくると、お互いに助け合いながら、横と横が連携できる地域性を作っていくという事がもっとも大切になってくる。
- ・自治会そのものが変わってきていると感じるので、しっかりと見直して、制度を作っていただきたい。
- ・三重県には地の利がある。伊勢志摩に加えて、世界遺産の熊野古道もある。真珠のマーケットも、いろいろな流通を持っていることは大きい。漁業、農畜産業についても、かなり有利な地域にあると思う。これだけ近い場所に国際空港があるのも有利なところだと感じる。ここで着実にいろんな施策を打って行けば、かなり魅力的な県として、みんなが羨ましがらるような県になっていくと思う。
- ・地域で生活をできるような場をつくりたい。また、地域の中でお金が循環できるような形ができるプロジェクトに、今から挑んでみようと思う。

(基盤づくり)

- ・リニアの前倒しが決まったが、より一層の前倒しをお願いしたい。
- ・セントレアの滑走路が、まだ一本しかない。国際空港で二本もないような空港は、海外ではあり得ない。
- ・今、世界の富裕層は、スーパーヨットで旅をしている。中国などでもそういう富裕層が出てきていると聞いている。スーパーヨットが着岸できるハード整備などを考えていただきたい。

(知事の発言)

- ・合計特殊出生率は、子どもスマイルプランから引用している。こどもスマイルプランを作成するときに長時間にわたって議論して決めている。また、これをもとに地方創生の総合戦略の実行シミュレーションを作っていることもあり、変更は難しい。しかし、大変重要な指摘だと思うので、指標自体は変えられないが、今後の取組に生かしていきたい。
- ・検証レポートについては、少し無機質なので、見せ方を検討したい。
- ・たくさんの意見をいただいた。人づくりに関しては、教育と高齢者の方も含めて人をどう生かすかということとが、地方創生における大変重要なテーマであるということ。
- ・一次産業、正規・非正規の方も、そして女性の方、障がい者の方、高齢者の方、あと育児と両立しながらの働き方が非常に大事だと思う。

- ・ いずれにしても地域を良くしていくのは自分達であるという当事者意識を持ってどう地域に関わるか、地域との関わり方ということについてもご意見をいただいた。
- ・ インフラ整備の話など基盤的な部分もしっかりやっていかなければならないという話もあった。
- ・ 大変貴重なご意見を頂いたので、次の総合戦略の取組の中でしっかり生かしていきたい。